

2021.9



# 佐賀大学病院ニュース

患者・医療人に選ばれる病院を目指して

News & View



〒849-8501 佐賀市鍋島五丁目1番1号

TEL 0952-31-6511(代)

病院ホームページ <http://www.hospital.med.saga-u.ac.jp/>

## 新型コロナウイルス最前線



高度救命救急センター

センター長 阪本雄一郎

新型コロナウイルスについては、各県が地域の医療体制に合わせて対応しております。佐賀県の試算によると、第4波は第1〜3波以上の重症患者発生と多数の患者発生が懸念されております。この対応策として、佐賀県内全域の重症患者は全て当院へ集約する戦略へと変更いたしました。

これに伴い通常診療とともに、高度救命救急センターの看護師及び救急科医師を主体として、総合診療部・感染制御部・集中治療部・内科系各診療科によって最大10名のECMO（エクモ：体外式膜型人工肺）や人工呼吸器を要する重症患者に対応し、定期手術や緊急手術等の高度医療体制維持を外科系各診療科等によって行う診療体制をとりました。まさに総力戦で第4波を乗り切ったと言えます。



特にワクチン接種前より陽性患者さんの対応に全員が希望してくれていた高度救命救急センターのスタッフの存在は誇りでございます。



## 新型コロナウイルス ワクチン接種について

多くの人に、迅速に、安全に



感染制御部 部長 青木 洋介

2021年8月、東京オリンピックが終了した後、ヒト体内での新型コロナウイルスの規則正しい複製（増殖）やヒトの動きに乗って拡大するという動きは、2020年春以来、終始変わりません。ウイルスの動きは判っているのですが、ウイルスを運ぶヒトの動きが判らず、また、制御できないために感染症を収束させきれないのです。ヒトの力で少しでも収束に近付けるには「ワクチン接種」が必要です。ウイルスの変異・感染拡大と、ヒトへのワクチン接種は同じ時間軸での競争なのです。

本年6月以来、佐賀大学医学部は佐賀市及び佐賀県の集団接種会場に医療者派遣を継続しており、高齢者の高いワクチン接種率をもたらすことに貢献できていると思います。

8月からは佐賀大学本庄キャンパスでの職域接種が始まり、ここにも鍋島キャンパスから人員を派遣し、ワクチン接種を粛々と進めています。活用できるワクチンがある限り、多くの人に、迅速に、安全に接種を進めていくことが医療者の使命です。



▲佐賀大学職域接種での山下病院長と木村副病院長（問診ブース）



▲末岡医学部長



▲成澤名誉教授

(いずれも佐賀市集団接種会場)

## 医師育成・定着支援センターの設置及び就任挨拶



医師育成・定着支援センター

センター長（特任教授） 江村 正

このたび佐賀県に定着する医師を増やす取組の一環として、佐賀県の委託講座である「医師育成・定着支援センター」が附属病院に開設されました。当センターは私と徳島緑特任助教と事務補佐員等2名の計4名の小さなセンターですが、医学部を目指す高校生から、医学、研修医、医師のキャリアを幅広く支援していきたいと考えております。「教育」をキーワードとして、縁があった佐賀で学んでいる医学生や若い医師が、県民や指導医や医療機関とつながっていけば、それが地域貢献への「志」を育むことにつながり、結果として、佐賀に定住

してくれる医師が増えることにつながるのではないかと考えています。

私は佐賀医科大学の第4期生として1981年に入学しました。鳥取県出身ですが、佐賀に来て40年となりました。佐賀は住み良く地域住民の方も医学生の教育に協力的で、医師として学びながら地域に貢献していくには非常に良い場所です。私と同じように佐賀に来て良かったと思ってくれる医学生や研修医が増えるよう頑張った活動していきますので、皆様のご支援のほどよろしくお願ひします。

# 診療科紹介

## 血液・腫瘍内科

血液・腫瘍内科では、白血病や悪性リンパ腫などの血液疾患の治療や主に消化管や原発不明の悪性腫瘍の化学療法（抗がん剤治療）を担当しています。外来は毎日行っており、また、40〜45人の入院患者の治療に当たっています。外来は助教以上の教官が担当し、入院患者さんの主治医は研修医、医員（卒後3〜5年程度）が担当し、常に教官が指導に当たっています。佐賀県内の病院との密接な連携を基盤に、診療・研究を行っています。現在、院内には血液内科専門医が7人、がん薬物療法専門医が3人おります。多くの全国的な臨床試験グループに所属し、新たな治療法の確立に努めています。血液グループは、年間20例以上の造血細胞移植を行っており、九州でも有数の移植施設となりつつあります。腫瘍グループも対応する疾患を徐々に拡大し、遺伝子の情報に基づいたゲノム医療も積極的に取り入れています。



教授  
木村 晋也

研究面における血液・腫瘍内科の最近のトピックは、慢性骨髄性白血病患者さんの約半数が特効薬を止めても再発しないことを、佐賀大学が研究代表施設となり行った臨床試験の結果として世界で初めて報告したことや白血病に有効な新薬OR2100を開発していることです。



# 就任挨拶



皮膚科 教授  
杉田 和成

このたび2021年4月1日付けで佐賀大学医学部内科学講座皮膚科の第3代教授を拝命しました。私は、2002年に産業医科大学医学部を卒業後、産業医科大学皮膚科、京都大学大学院医学研究科皮膚科学、Swiss Institute of Allergy and Asthma Researchに在籍しました。2016年に留学先のスイスから日本に帰国後、鳥取大学医学部附属病院皮膚科において、私が専門領域とする、免疫・アレルギー、皮膚腫瘍（特に皮膚リンパ腫）、皮膚病理組織学を柱に診療、教育、研究に従事し現在に至ります。近年、アトピー性皮膚炎など免疫アレルギー疾患は増加

傾向にあります。また、皮膚悪性腫瘍は希少ですが、高齢化とともにその発生数は増加しており、佐賀県における大学病院の果たす役割は大きいと考えております。加えて、免疫アレルギー疾患、皮膚腫瘍の診断と治療には免疫学、皮膚病理組織学、皮膚外科領域における高度な知識と技術が求められます。したがって、地域の皆様方に安全で高度な医療を提供するために、緊密な病診・病連携を通じて佐賀県における皮膚科の診療を発展させていきたいと考えております。これからどうぞよろしくご協力申し上げます。

# リニューアルオープン （メディカルサポートセンター）



センター長  
野口 満

当院は、佐賀県唯一の大病院として高度先進医療の推進はもちろん、佐賀県における急性期医療の要として「地域医療への貢献」にも取り組んでいます。2021年5月より、以前より設置していましたが「地域医療連携室」と入院支援等を「Open」して「メディカルサポートセンター」を統合し、「メディカルサポートセンター」をリニューアルオープンいたしました。新体制のメディカルサポートセンターは、より質の高い診療を提供すべく、患者さんごとに手厚いサポートを行い、佐賀県における地域医療連携並びに地域包括ケアを後押しする役目にも対応できるようにいたしました。

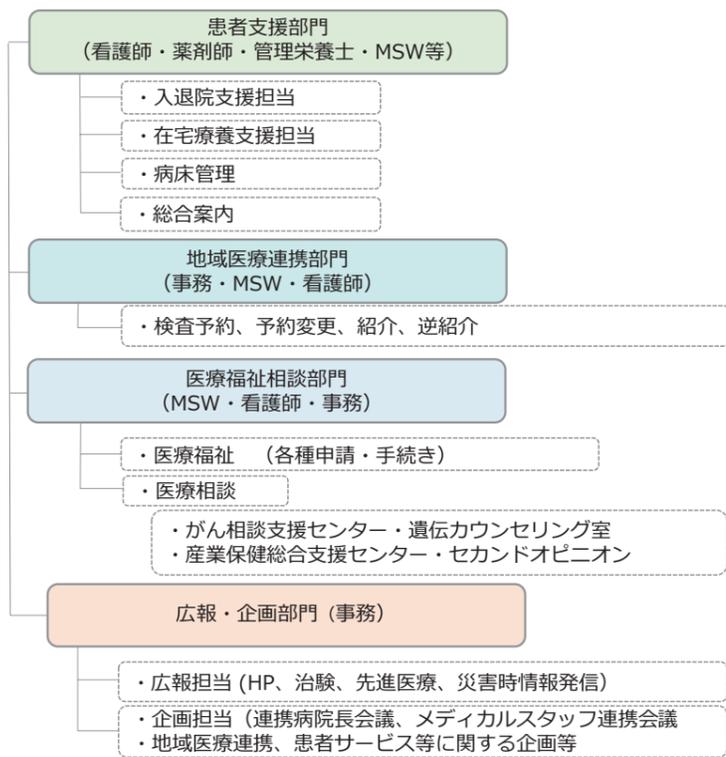
当センターは、「患者支援部門」、「地域医療連携部門」、「医療福祉相談部門」、「広報・企画部門」の4部門で組織しております。医師、看護師、メディカルソーシャルワーカー、薬剤師、管理栄養士、

事務職員の多職種から構成されたスタッフが常勤し、患者さんおよびご家族へのサポート、迅速な地域連携が行える体制を整えています。また、「広報・企画部門」では、当院の受診・診療に関するお知らせの他、様々な医療情報の発信を行って参ります。



## メディカルサポートセンター

### 構成部門組織図



## 看護の日イベント

近代看護を築いたフローレンス・ナイチンゲールの誕生日である5月12日を「看護の日」として、毎年、全国各地で様々なイベントが行われています。本院では、昨年度よりコロナ禍でのイベントとして「ポスター掲示」を主に、外来ICエリアで行いました。ポスターは「ナイチンゲールの功績」とコロナ禍であることから「ナイチンゲールによる感染対策の教え」、今年のテーマである「だから、私は、看護を選ぶ」にちなんで「看護師になるまでの道」、「佐賀大学医学部附属病院で働く看護師たち」を掲示しました。これまで「栄養相談」や「手洗いチェック」「救急蘇生」など、患者さんが体験できるようなイベントを行ってきたおり、ポスターを見学してくださった患者さんからも要望がありました。次年度はポスター掲示とともに患者さんが体験できる看護の日のイベントを実施できるよう、新型コロナウイルスの収束を願うばかりです。

## 連携病院紹介

### 唐津赤十字病院

院長  
志田原 哲

唐津赤十字病院は、日本赤十字社の人道、博愛の精神に基づき、昭和32年に設立された病院です。地域災害拠点病院及びDMAT指定医療機関であり、県内外で大規模災害が発生した場合には、救護班やDMATを派遣し医療支援を行っています。平成28年にはよりよい医療を提供するため、現在の場所に新築移転しました。地域救命救急センターとして急性期医療を担うとともに、地域連携小児救急センター、地域がん診療連携拠点病院など、地域の医療機関と連携することで、患者さんの病状に合わせた質の高い医療を提供できるよう努めています。今後も地域医療の最後の砦としての役割を職員一丸となって果たしていきます。

### 【本院との連携の状況】

患者さんの紹介・逆紹介や医師の派遣など、幅広い分野において密接に連携いただいております。特に昨今のコロナ禍においては、院内感染対策の指導をしていただくなど感染症医療でもご協力いただいております。また、臨床研修病院として佐賀大学出身の研修医を毎年複数名受け入れており、今後も佐賀県の医療を支えていくために共に貢献していきたいと考えています。今後ともご支援、ご協力のほどよろしくご協力いたします。

